



◎はじめに

佐賀県では、県立学校において、平成23年度から「(先進的)ICT利活用教育」を進めてきました。近年では、ICT機器(パソコンやスマートフォン等の情報端末の総称)の発展は目覚ましく、様々な機器を様々な場面で活用する取組が全国的に行われており、文部科学省の「GIGA(ギガ)スクール構想」の一環で、公立学校での「1人1台」体制が各自治体で整えられてきています。これらを踏まえた、本校におけるICT活用について皆様にお伝えしていきたいと思えます。

I GIGAスクール構想

「GIGAスクール構想」とは、「誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に個別最適化され創造性を育む教育ICT環境を実現する」ことを目的とした施策です。1人1台の情報端末、高速インターネット通信等を活用し、紙や鉛筆、黒板だけでは成し得なかった、デジタルの特長を生かした教育環境の実現が進められています。

ICTの活用により充実する学習の例

- ☑調べる学習 課題や目的に応じて、インターネット等を用い、様々な情報を主体的に収集・整理・分析
- ☑表現・制作 推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作
- ☑遠隔教育 大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び
- ☑情報モラル教育 実際に情報・情報技術を活用する場面(収集・発信など)が増えることにより、情報モラルを意識する機会の増加

(リーフレット) GIGAスクール構想の実現へ/文部科学省

特に特別支援教育においては、教科指導の効果を高めるための活用の他に、児童生徒の個々の特性に応じた支援機器(アシスティブテクノロジー)としての活用も重要になります。

特別支援教育におけるICT活用の視点

視点1

教科指導の効果を高めたり、**情報活用能力の育成**を図ったりするために、ICTを活用する視点

- 教科等又は教科等横断的な視点に立った資質・能力であり、**障害の有無や学校種を超えた共通の視点**。
- 各教科等の授業において、**他の児童生徒と同様に実施**。

視点2

障害による学習上又は生活上の**困難さを改善・克服**するために、ICTを活用する視点

- **自立活動**の視点であり、特別な支援が必要な児童生徒に特化した視点。



各教科及び自立活動の授業において、**個々の実態等に応じて実施**。

(資料) ○特別支援教育におけるICTの活用について/文部科学省

上の資料に示されるような2つの視点から学校全体としての取組目標を設定し、各学部や教育課程での学習内容、児童生徒に応じた活用を進めています。

2 一人一台端末を活用した授業改善研究

本校では県教育委員会より「令和4年度 一人一台端末を活用した授業改善研究」の指定を受けています。研究主題として「特別支援教育における一人一台端末を用いた学びの改善～合理的配慮と自立活動の視点を踏まえて～」を設定し、以下の4点を中心に研究を進めています。

- (1) 合理的配慮に基づく、一人一台端末機器を用いた児童生徒支援の改善
- (2) 自立活動の指導計画に基づく、一人一台端末を用いた授業の改善
- (3) 授業公開、学校HP、広報誌による情報提供
- (4) 職員研修、先進校視察

12月9日（金）には、学校関係者向けの授業公開・公開研修会を予定しています。詳細については、後日ご案内いたします。

3 職員研修

本校では、夏休みなどの長期休業を利用して、ICT活用に関する職員研修を実施しています。今年度は、上記研究の推進も兼ねて、一部を県内小中学校への公開研修（オンライン）として行いました。



公開研修「特別支援教育とGIGAスクール構想～アシティブ・テクノロジーの視点を踏まえて～」(講義)では、本校職員の他16校からの参加があり、教育現場でのICT活用の動向や、特別支援教育での活用の視点について研修を行いました。自治体により導入端末や運用方法の差がありますが、本研修会をきっかけに県内での特別支援教育でのICT活用について情報交換をしながら進めていければと思います。



「使ってみよう！コミュニケーションを支援するアプリ」

画面をタップして、気持ちや要求を伝えるコミュニケーションアプリ「DropTap」^{ドロップタップ}の演習をしました。



「遊んで学ぼう！プログラミング」

「Viscuit」^{ビスケット}を使ったプログラミング演習を行いました。プログラミング初体験の職員も楽しく学びました。

その他、デジタルノートアプリやiPadのアクセシビリティ機能について演習を行いました。今後も児童生徒の活用に結び付く研修を行っていきたいと思います。